

## 1. 活動報告（事務局 塩谷 記）

2月28日（木） 市民センター前とビオトープ内に遊ロード二俣瀬の案内板を設置しました。製作委員会の努力で素晴らしい案内板が設置されました。さっそく地元の人々が案内板を見て「今までにない案内板で、大人が見ても、子供が見ても楽しい案内板ですね」と評判は上々。

3月2日（土） 今日4班に分かれ作業をしました。1班はベンチを山頂に持って上がりすえました。2班は遊歩道の草刈り、3班は山桜の植栽、4班は滝周辺の掃除。もう遊ロードは完成しました。多くの人に訪ねてほしいものです。

3月5日（火） ビデオ（CD）製作委員会の会議がありました。なかなか皆さんいろんな思いがあるようで、いろんな意見が出ました。この努力が素晴らしいCDになることでしょうか・・・？

3月9日（土） 今日24日の竣工式を前にヤナギや山桜を植栽し、ビオトープの大掃除をしました。

3月9日（土） 宇部自然保護協会の野鳥観察板が設置されました。これで、野鳥を区別することの出来ない私でも、わかる日が来るのでは...

3月9日（土） 山口大学工学部で開催された山口県環境教育学会研究会にて、会員の西原さんが「二俣瀬ビオトープづくりの苦労話」と題して講演されました。1時間の講演のあと、ビオトープのありかたなどについて白熱した議論が展開されました。「手つかずの自然やたんぼの価値を見直してほしい」という意見がある一方で、「子供を自然に触れさせる場として必要だ」という三歳児の母の意見や、「同好の集まりを楽しみながら自然を守る大変すばらしい試みだ」という賛辞も寄せられました。ビオトープに対する考えは人によって様々ですが、どなたにも大変興味を持っていただけたことは間違いありません。

3月13日（水） 二俣瀬市民センターで、会議がありました。新しいパンフレットのデザインや3月24日に行われる竣工式のことを、話し合われました。

3月15日（金） 山口大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー平成13年度年度末報告会（3月15日13時～19時半、国際ホテル宇部）において、里山ビオトープ二俣瀬を題材としたマルチメディア教材の製作について進行状況が報告された。

3月16日（土） 今日の作業は竣工式に備えてお休みでしたが、元気な皆さんにより、立派な案内板が、遊ロード各場所に立てられました。

3月16日（土） 岡山大学で開催されました日本水環境学会（第36回年会）の付設展示会「わたしたちと水」に、「里山での水系を利用した、竹炭・木炭で浄化された水によるビオトープづくり」というテーマでパネル展示しました。会員の潮村さんと西原さんが参加しました。

3月20日（水） ふるさとの川セミナーが開催され、午前中はビオトープの視察が行われ、午後からは常盤湖水ホールで、関根先生が「里山ビオトープ二俣瀬の建設について」と題して講演されました。参加者も県内各地の水系協議会の関係者ということもあり、熱心に聴講されていました。また、講演の後、ビオトープのありかたや、町中の屋敷林にある池に、ミズスマシを戻すにはどうすればよいかなどの質問があり、関根先生からわかりやすく説明が行われました。

## 2. 今後の予定（事務局 塩谷 記）

4月14日（日）自然観察会 — 旬の野草を賞味。10時から13時 小雨決行。宇部自然保護協会とつくる会の共催で自然観察会が開催されます。野草を摘んで、天ぷら・和え物で自然の恵みを賞味します。昼食のおむすび・お茶は各自持参願います。申し込みは不要で、参加希望の方は里山ビオトープ二俣瀬に直接お出で下さい。

## 3. ビオトープ関連（ビオトープで観察される動植物）

“二俣瀬ビオトープにおけるトンボ相について...第8回” （原 隆 記）

- ・2月23日（土）晴れ時々曇り、今日は、林 弘之さんからの情報でビオトープ周辺を散策してみました。道路からすぐ山に入った所に小さい溜池を3ヶ発見しました。すぐに、タモを入れて見てヤゴの調査をした所、水質が割合に綺麗なのが流水性のトンボのヤゴが沢山いました。意外でした。調べて見るとそれらの溜池に山からの染み出した比較的綺麗な水が、流れ込んでいたのです。自然は、本当に正直です。これから、トンボが出てくる頃が非常に楽しみになりました。今日のトンボ、ビオトープ周辺の草地で...オツネトンボ2、ヤゴの調査...小さな溜池(3ヶ)タバサナエ4頭、コシボソヤンマ2頭(流水性のトンボ)、イトトンボ2頭、オニヤンマ5頭(流水性のトンボ)
- ・3月3日（日）晴れ、今日は、晴れていい天気です。ビオトープの中を歩いていても、とても気持ちがよくなります。草花も少しずつ花を咲かせてあちこち色合いがよくなって来ました。そして、モンシロチョウが1頭ひらひらと風に流されるかの様に飛んでました。いい田園風景です。今日のトンボ、ビオトープ周辺の草地で...オツネトンボ1、ホソミイトトンボ3
- ・3月10日（日）晴れ時々曇り、今日も、須賀河内川に入ってヤゴの調査をしました。沢山の終齢のヤゴを確認しました。もうすぐ、羽化してトンボになって飛び回る日も近いと思います。川の中をうろろしてタモを入れているうちに、小さな魚が一匹入りました。どこか、図鑑で見たような気がして“オヤニラミ”では？と感じました。なにせ40mm程度の小さい魚でしたから、逃がしたら大事と思ってすぐに、フィルムケースに入れました。それから、ほとんど時間の経たない内に又タモに何か入りました。その形態は、何とも奇妙な色と形で手で触ったら思わず背筋に電気が走る様な思いでした。ドジョウにしては、肌色

でウナギにしてはどこか違う...よく見ると腮は左右に8つあって、もしかして“ヤツメウナギ”？と思いました。それから、よく考えてこのまま放してしまうのか？これも、フィルムケースに入れておいて魚類は飼った経験があまり無いのでどうしたら良いのか迷ったあげくに脳裏に浮かんだのは、林 弘之さんの顔でした。早々に、生きている内にといいながら大変ご迷惑と感じつつ自宅まで持って行きました。その時、奥様がおられて一通り説明してから御願いして後にしました。(それからの、情報でオヤニラミとヤツメウナギでした。)何から何までいつもご迷惑掛けます。それから、今後とも宜しくお願いします。早く大きくなって欲しいものです。今日のトンボ、ピオトープ周辺の草地で...オツネントンボ2、ホソミオツネントンボ1、ホソミイトトンボ1、ヤゴの調査...コシボソヤンマ5頭、カワトンボ4頭、ヤマサナエ2頭、コヤマトンボ3頭、コオニヤンマ2頭、他...カゲロウ多数(沢山羽化しています。)エビ多数、魚類多数

- ・ 3月17日(日)晴れ 13時 気温 16.5 - 止水池の水温 15 - ピオトープそば須河内川 14、ピオトープは日差しも高くなり、もうすっかり春の陽気を挺しています。吹く風も心地よく、心を癒してくれます。春の草花も沢山見られ、白いたんぽぽ、ふきのとう、小さくてかわいい野草、レンゲなど沢山咲いています。モモの花の香りもピオトープそこらじゅうに香って、心を落ち着かせてくれました。小鳥たちも、さえずりが日増しに大きくなって来ている様な気がします。池の中には、沢山のメダカやオタマジャクシが、泳ぎまわっていました。今年は、あまり雪も降らず年々冬が短くなって来てる感じです。今日のトンボ、ピオトープ周辺の草地で...オツネントンボ3、ホソミオツネントンボ2、ホソミイトトンボ2、ヤゴの調査...コシボソヤンマ3頭、カワトンボ3頭、ヤマサナエ1頭、オニヤンマ3頭、コヤマトンボ2、コオニヤンマ2頭、イトトンボ5頭、ウチワヤンマ1頭、トンボ10頭、他...カゲロウ多数(日増しに羽化個体が増えています。)エビ多数、魚類多数

“二俣瀬のピオトープ周辺で観察される鳥” (宇部自然保護協会 末村 和行さん 記)

冬鳥たちが北に向かい、入れ替わるように夏鳥たちが姿を見せ始めるこの時期、昭和山ではエナガが巣作りの準備に一生懸命です。2月に見られた野鳥は常連のスズメ、ヒヨドリ、メジロ、ホオジロ、モズ、ジョウビタキ、ハシブトガラス。冬鳥のツグミ、シロハラは減っているようです。昭和山の上空ではミサゴは悠々と旋回していました。

#### 4. ピオトープ関連 (ピオトープ近辺の案内)

“おびい堤(づつみ)” (車地 吉富 壮介 記)

前述“道標”の山路をだらだら登っていくと、300Mで新幹線。架橋を渡ったところに東西に長いタンポがある。これが「おびい堤」。兩岸はうっそうと樹々が覆い、水はドロドロと深い。ナメラガ浴(えき)堤が本名。その昔お尼僧(びい)様が入水自殺したことから、この名がついたとも。すぐ近くを一日十本、新幹線が通過する。その騒音と振動で、鴨もカラスも来ない。カイツブリが静かに浮いていたりする。池の周辺には一軒の家もなく、水田が広がっていたが、減反がひびいて荒涼とし、イノシンがあらわれて殺伐な風景に。いま「おびい様」と聞いて「ほう...」と思う者も少なくなったが、ナメラガ浴堤と呼ぶ人は、ひとりも居ない。

#### 5. 会員の声

“第二の故郷二俣瀬” (重村 和成 記)

里山ピオトープ二俣瀬をつくる会に参加してから早1年が過ぎました。宇部に来て2年しか経っていませんが、学業、ピオトープと非常に充実した日々を過ごすことが出来ました。会に参加し、社会人会員の方々の熱意には非常に驚きました。学生である私よりも多忙である社会人会員の方々は雨の日でも作業されており、また会の運営方法にも幾度も会議を重ねられて検討されていました。最近の若者は...と言われても仕方ないと思わせるほど、私の非力さを痛感させられました。しかし、二俣瀬は私の郷里と重なる場所があり、ピオトープづくりへの参加は、ボランティアと言うような堅苦しいものではなく、幼い頃に父の手伝いで田畑に出ていた思い出と重なるようで、大変楽しく参加させて頂きました。また、非力ながらもパンフレットづくりにも参加させて頂き、私の足跡が残せ大変うれしく思います。加えて、それ以上に会員の皆様に出会い、多くのことを学べたことを非常に感謝しています。またこの度、学校の方からボランティア活動に参加したと言うことで、常盤賞を頂くことになりました。文末ではありますが、会員の皆様にご報告させて頂きます。本当に、会員の皆様のご努力に比べれば私は微力であり、このような賞を頂くのは大変恐縮に思います。最後に塩谷さん、西原さんをはじめ、会員の方々には大変御世話になりました。また宇部に帰って来た時には、ピオトープにも顔を出したいと思えます。本当に色々とお世話になりました。

#### 6. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

話には聞いていましたが、今日初めてピオトープに来ました。イメージしていたよりは、大分広く、水の流れがあるのに感心しました。久しぶりに自然のメダカが泳いでいるのを見ました。我々の子供の頃は、近くの小川にたくさんいたものですが、最近見たのは、ロイヤルホームセンターの中の水ソウでした。回りの景色も落ち着いた感じで、春になると又違った風景になるのでしょうか。今日は、近くを散歩して帰ります。又、来てみたいと思えます。追伸、ピオトープを作るのは、大変だったでしょう。御苦労様でした。(3月3日(晴)風やや強いが、暖かい 浅上)

まず、最初にメダカが生息していて生命の大事さが感動しました。(3月3日 小郡・宇部 生息人)

又、来てしまいました。今日は、ピオトープへ来るまでの花が前回とは、変わっていました。今から、散歩で、山の方へ行ってみます。遠くで、ウグイスが鳴いています。春、Spring has come! (3月17日雲 浅上)

暖かくなり天気もいいのでサイクリングで小野方面へ行こうと思いきや家を出ました。途中でピオトープの看板を見つけたので立ち寄りしました。新聞で知ってはいましたが来たのは初めてです。予想していたより広く水車もあり驚きました。作られた方々ご苦

労様です。また来て、回りの山へも行ってみたいです。（3月17日晴・曇 K.Koji）

#### 7. 会よりの連絡事項

今回はありません。

#### 8. 編集後記

植栽をしている時によく話題に出ることは、外来種・園芸種は植えないということです。もともと二俣瀬にあった植物は何かと地元の人に聞いてみても、返ってくる答えはまちまちだと思います。事細かく掘下げてこれが正しいという文献でもないかぎり、判断は難しいと思います。でも近年の外来種は割と見分けられます。セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、ホテイアオイは有名であり、動物では、ブラックバス、ブルーギル、ライギョ、ウシガエル、アメリカザリガニ、ジャンボタニシなどが知られています。ではなぜ外来種が悪者扱いされるのでしょうか。侵入した生き物には、生態系の中でそれを捕食する天敵がいまないので、生態系が不安定でバランスが壊れやすく大発生を繰り返します。このようにして、科学力・技術力の進歩により生物の移動能力が飛躍的に増大したことによる、世界規模で進む「植生の均質化」が起っています。均質化の怖いところは、一度ダメージを受けるとそれが全体に広がってしまうことです。そのため生物の多様性が大切だといわれていますが、難しい話はあまりしないで、やはり、昔ここ二股瀬にあった豊かな里山を復元させるという夢を追いつづけたと思います。みなさんいかがなものでしょうか。たまには議論もいたしましょう。（西原 一誠 記）